



ご来園の皆様の感染症予防のために

- ◆ ご来園前に、検温等を行ってください。
- ◆ ご入園の際は、体温確認させていただきます。
- ◆ 園内では、マスク等を着用し、人との距離の確保をお願いします。
※ 人との距離を十分に取ったうえで、適宜マスクを外すなどの休憩をとり熱中症の予防を心がけてください。
- ◆ 未来くん広場(遊具・きのこ文庫)を閉鎖、観覧温室内の昼夜逆転室を閉室しています。
- ◆ 水琴窟を使用禁止しています。

ご理解ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

※7月から 講演会・講習会等を順次再開しますが、**定員30名以内**ですのでご理解ください。

※お待たせしました!!

- 7月4日(土)から「土曜ミニミニガイド」を再開します***時間短縮**で失礼します。
- 7月5日(日)から「植物園芸相談(来園相談)」を再開します。

第18回 富貴蘭展

○日時: 7月3日(金)~7月5日(日)
○場所: 植物園会館1階 展示室
○内容: 富貴蘭約200点を展示。販売有。

◆7/5(日) 富貴蘭の育て方講習会

植物園会館2階多目的室 13:30~15:00
(当日会場受付 13:00~)
講師: 趣味の富貴蘭会京都會員
定員: 先着30名
参加費: 無料(別途入園料が必要)

第29回 食虫植物展

○日時: 7月23日(木・祝)~8月10日(月・祝)
○場所: 観覧温室特別展示室
○内容: ウツボカズラ、サラセニアなど100種展示。
○販売: 7/23の13:00からと、7/24~26

◆7/26(日)「ハエトリソウについて」講演会

植物園会館2階研修室 13:30~15:00
(当日会場受付 13:00~)
講師: 大谷博行氏
定員: 先着30名
参加費: 無料(別途入園料が必要)

♪夏の子ども写生大会 募集中!!

7/26(日) 7:30~10:30開催!

★京都彫刻家協会会員が絵画指導!

事前申込 〆切 7/15(水) 詳細は植物園HPで!



🍀「土曜ミニミニガイド」 技術課職員が植物解説!

毎週土曜日は・・・

植物園会館前集合: 午後1時スタート!

🍁 アートボトル講習会(4) 募集中!!

7/9(木) 経験者の部 10:00~12:00
初心者の部 13:30~15:30

★山野草アートボトル同好会が作り方を指導 ★定員:各10名
★参加費:3,000円(別途、入園料が必要)
★事前申込:往復ハガキに講習会名、受講希望の回・部、住所、氏名、電話番号を明記 ★〆切:7/6(月) ★会場:植物園会館2階研修室

植物園芸相談

■ 毎週 日曜日 午前9時~正午、午後1時~午後4時
■ 電話075-701-0141で



スマホdeガイド

QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定!

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成! 「おすすめ樹木めぐり」 「おすすめエリアガイド」などをスマホで確認し、植物観察!



※年間パスポート好評発売中

・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです!
大人1000円 高校生750円
・入園門でご購入いただけますので是非お買い求めください。
※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP!



⑫ **イクソラフケリ**

アカネ科。マダガスカル原産。花色ははじめ白色で、後に黄色に変化する。細長い花筒の基部には蜜があり、受粉を行うマダガスカル固有のスズメガの仲間のみがその甘い蜜を吸うことができる。花は甘い香りがあり、特に午前中よく香る。

⑪ **アジサイ**

アジサイ科。原種は日本に自生するガクアジサイ。花弁のように見えるのは萼片(がくへん)で青系から紫、赤まで多様な色の品種がある。花色は土壌のpH値などに大きく左右され、アルカリでは赤色に、酸性では青色になる傾向がある。

⑩ **レンブ**

フトモモ科。マレー半島原産。食用として台湾、インド、フィリピン等で栽培。果実は直径約3~7cmで赤や緑など様々な色がある。生食しリンゴとナシを合わせたような味わいで、爽やかな酸味があるが果汁は少ない。英名はWax apple。

⑨ **パッシフロラ**

トケイソウ科。属名のパッシフロラはラテン語で「受難の花」を意味し、花の形を十字架にかけられたキリストに見立てて付けられた。また、三分裂した雌しべが時計の針のように見えるため、日本では「トケイノ」と呼ばれることが多い。

① **ニュートンのリンゴ**

バラ科。アイザック・ニュートンは、リンゴが樹上から落下する様子を見て万有引力のアイデアを得たといわれ、この時のリンゴの木が「ケントの花」という栽培品種。この個体は原木が老衰で伐採される前に接ぎ木で増やされたうちのひとつ。

② **アガパンサス**

ヒガンバナ科。南アフリカ原産。別名「アフリカンリリー」と呼ばれるほか、君子蘭に似ていることから「紫君子蘭(ムラサキクンシラン)」という和名もある。ギリシャ語で愛を意味する「agape」と、花を意味する「anthos」が名前の語源。

③ **ハス**

ハス科。インド、中国、日本などに自生。花は日の出から咲き始め、昼頃には閉じてしまう。この開閉を約4日間繰り返した後、花びらが散る。和名の「ハス」は、花が散った後にできる果托(かたく)が蜂の巣に似ていることに由来。

④ **ノウゼンカズラ**

ノウゼンカズラ科。中国中部~南部に分布。日本には平安時代に渡来した。一つの花の開花期間は短い、夏の間は次々と新しい大輪を咲かせ続ける。花は落下した後も色あせず、美しい状態がしばらく続く。

⑤ **ベニバナ**

キク科。エジプト周辺原産との説あり。日本へはシルクロードを経て6世紀頃以前、主に赤色染料の原料として渡来。花が黄色い時期に、上の部分、つまり末(すえ=先端)につく花を摘むことから、末摘花(すえつむはな)の名でも呼ばれる。

⑥ **ハンゲショウ**

ドクダミ科。本州以南、朝鮮半島~中国の水辺や湿地に自生。花穂の基部の葉が白く脱色し、花を目立たせている。和名は夏至の11日後の「半夏生(はんげしょう)」に花が咲くことや、葉が緑を少し残して白くなる「半化粧」に由来。



写真はコチラ!



⑧ **ムラサキバレンギク**

キク科。北アメリカ原産。花びらがやや下向きに反って咲く姿が「紫色の馬簾(ばれん)のような菊」に似ることが名の由来。馬簾とは、江戸時代の町火消しが消火活動の目印などに用いていた纏(まとい)にのれんのように付いている部分。

⑦ **エーデルワイス**

キク科。ヨーロッパアルプスに自生。淡い白色の葉を薄く積もった雪に例えて、「セイヨウユスユキソウ」とも呼ばれる。エーデルワイスはドイツ語で「高貴な白」を意味し、アルプスのシンボルとして親しまれている。アルプス三名花の一つ。